

## おたふく風邪



### この疾患について

おたふく風邪はウイルスによって起こる伝染病です。おたふく風邪の典型的な症状は、耳の下にある唾液腺の腫れで、圧痛のある腫れた顎を生じさせます。

子供では、おたふく風邪は通常軽度の疾患です。ただし、特に成人では、おたふく風邪は時に合併症を引き起こすことがあります。合併症には、

- 髄膜炎（脳および脊髄の髄膜の感染）
- 難聴（一時的または恒久的）
- 脳炎（脳の腫れ）
- 思春期に達した男性の精巣炎（睾丸の腫れ）
- 思春期に達した女性の卵巣炎（卵巣の腫れ）や乳腺炎（胸部の腫れ）などが含まれます。

### 兆候と症状

よく見られる症状に、発熱、頭痛、筋肉痛、疲労、食欲不振のほか、耳や顎の下の片側または両側での腫れや圧痛のある唾液腺（耳下腺炎）が挙げられます。おたふく風邪にかかっても軽度であったり、症状が現れなかったりする人もいます。一方、気分が悪くなっても腺の腫れがない人もいます。

症状は、通常ウイルスに感染してから 16～18 日後に現れ始めますが、発病は 12～25 日の範囲で起こる可能性があります。

おたふく風邪にかかったほとんどの人は、数週間で完全に回復します。

### 感染

おたふく風邪は、感染者の口、鼻、喉からの唾液や粘液を通して広がります。感染者は、

- 咳、くしゃみ、会話
- カップや食器などの物を他の人と共有すること
- 洗っていない手で物や面に触れた後に、他の人がそれに触れることからウイルスを広める可能性があります。

おたふく風邪にかかった人は、耳下腺炎の発病の前後数日間が最も感染性が高くなっています。ハワイ州の法律によれば、おたふく風邪にかかった人は、唾液腺の腫れが始まってから 9 日間は、学校、仕事、旅行に行くことが禁止されています。

### 診断

おたふく風邪は、症状、身体的兆候、臨床検査を組み合わせで診断されます。おたふく風邪の症状のある人は、医療提供者にすぐに連絡しなければなりません。

## 治療

おたふく風邪の特別な治療法は存在しません。おたふく風邪患者のケアは、主に水分の十分な摂取、ベッドでの安静、発熱のコントロールを行うことです。

## 免疫

一般に、次のうちの1つ以上に該当する人は、おたふく風邪にかかりにくいと考えられます。

- 1957年より前に出生した成人\*
- 血液検査でおたふく風邪に免疫がある、またはそれに罹患したことがあることが示された人
- 適正なおたふく風邪ワクチン接種の証明書を有する人（下記の「予防」を参照）

注意：おたふく風邪は、ワクチン接種を受けた人や、まれに過去におたふく風邪にかかったことがある人でも発症することがあります。

\*1957年より前に出生したワクチン接種を受けていない医療従事者については、以下の「医師向けの情報」を参照してください。

## ハワイでのリスク

- 届出伝染病の報告症例の概要  
[http://health.hawaii.gov/docd/files/2016/05/2015-SUMMARY\\_NOTIFIABLE-DISEASES-BY-COUNTY-STATE-OF-HAWAII.pdf](http://health.hawaii.gov/docd/files/2016/05/2015-SUMMARY_NOTIFIABLE-DISEASES-BY-COUNTY-STATE-OF-HAWAII.pdf)
- CDC ウェブサイトのおたふく風邪症例と大流行：  
<http://www.cdc.gov/mumps/outbreaks.html>

## 予防

おたふく風邪を予防する最善の方法は、推奨年齢で予防接種を受けることです。

すべての子供は、はしか、おたふく風邪、風疹の3つの疾患から身を守るMMRワクチンを2回接種する必要があります。1回目の接種は生後12～15ヶ月で、2回目の接種は4～6歳で受けます。

1957年以降に生まれたすべての成人は、おたふく風邪に免疫があることを示す血液検査を受けていない限り、ワクチン接種の記録も所有している必要があります。おたふく風邪への暴露のリスクが高い一部の成人は、MMRワクチンの2回目の接種を受ける必要があるかもしれません。

## その他のリソース

- CDC Website：<http://www.cdc.gov/mumps/index.html>
- MMR（はしか、おたふく風邪、風疹）ワクチンの情報シート：  
<http://www.cdc.gov/vaccines/hcp/vis/vis-statements/mmr.pdf>

## 医師向けの情報

CDC Website：<https://www.cdc.gov/mumps/hcp.html>

医療提供者は、おたふく風邪が疑われる症例をすぐに保健省に報告する必要があります。